

年頭挨拶



令和6年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

今年の干支は、「甲辰(きのえたつ)」です。「あまねく光に照らされ、急速な成長と変化が起きる年」といわれており、目に見える表立った行いも、これまで人目に付かなかった行いも、すべてに光が当てられ、大きく変化していく年になりそうです。人によつては、これまでの努力が認められ、更なる成長を遂げる年になるかもしれませんが、人知れず頑張ってきたことや自分でも気づかなかつた意外な才能が一気に開花する年になるかもしれません。

皆さんも自分の決めた目標に向かって頑張ってください。

さて、昨年の出来事を振り返ってみますと、世界では、ロシアによるウクライナ侵攻が長期化する中、イスラエルとパレスチナの間にも戦争がはじまり、民間人を巻き込んだ戦闘が続いているという悲惨なニュースが世界中に流れました。一刻も早く紛争のない平和な世の中が来ることを切に願うばかりです。

また、チャットGPTなどの生成AIを活用する動きが大きく加速しました。「AI」(Artificial Intelligence)とは人工知

それでは、本年の重点項目を述べます。

まず、「教育の質の向上」として

学修成果の評価の方針(アセスメント・ポリシー)等に基づく内部質保証活動を実践し、教育方法の改善を図る。また、歯科大学は、国家試験の合格率向上を図るほか、診療参加型臨床実習の充実により口腔医学教育を実践する。看護大学および短期大学は、国家試験の全員合格を目指す。

第二に「研究の質の向上」として

口腔医学研究センターを拠点として学園3大学の研究基盤を強化するとともに、全学的独自色を構築し、研究を活性化させる。また、適正な研究活動及び執行を実施するため、教職員の不正防止意識の向上を図る。

第三に「学生の受け入れ・支援」として

口腔医療、口腔保健、看護を志向する意欲ある優秀な学生を確保するため、大学の強みや魅力を最大限に伝えられる広報戦略を検討する。また、助言教員制度等により、個々の学生ニーズに即した修学支援体制を整備する。

第四に「社会との連携・貢献」として

安全・安心で高度な医療を推進し、地域の医療・健康維持に貢献するとともに、自治体や医療・保健・介護・福祉等の職能団体との連携並びに大学間連携による社会貢献活動を推進する。

学校法人 福岡学園 理事長

水田 祥代



能そのものを意味し、「人間の知的活動をコンピュータプログラムで再現したもの」を指すようですが、今後いろいろな形で私たちの生活でも活用されてくることと思います。

国内では、福島第一原発の処理水の海洋放出が開始され、安全性の確保と風評被害への対策が問題視されました。そのほか、国内の出生数が初めて80万人を下回るといふ話題も大きなインパクトがあり、高等教育機関である本学園にも今後多大な影響を与える問題であります。

本学園に目を向けますと、第四次中期構想を策定し、今後8年間の中長期的な経営計画を定めました。この構想を達成するために、毎年度の事業計画を作成し、教職員の日々の業務目標として活用されていることと思います。その他、「健康まるごと福岡学園」(学園祭)を4年ぶりに開催するなど学園に活気も戻ってきました。

今年はいよいよ新キャンパス整備計画1期工事が始まります。令和7年7月には完成予定ですので、新本館があつという間に姿を現すのではないかと楽しみにしています。これから数年は新たなキャンパスづくりが本格化していくと思いますが、福岡学園の未来のために共に歩んでいきましょう。

第五に「組織運営」として

法人運営の透明化を図るため、理事会・評議員会の組織体制等を再評価するほか、学長のリーダーシップのもと、教育研究活動の不断の見直しを行う。また、組織力を高めるため、人材育成に努めるとともに、認証評価結果を踏まえて、適切な内部質保証体制を構築する。

最後に「財務・施設整備」として

本学園が永続的に維持・発展し、安定した財政基盤を確立するため、学園3大学においては入学定員を充足させ、医科歯科総合病院、介護老人保健施設では収支を改善させる。また、学生の学修環境充実を最優先事項として新キャンパス整備計画1期工事に着手する。

以上を重点項目としたいと思います。

この重点項目を達成することで、本学は医療・保健・福祉の総合学園として更なる発展を遂げていくこととなります。皆さんの力で本学園はどんどん良くなっていくことと信じています。

最後になりますが、本学にとつても皆さんにとつても今年が実り多き年となることを祈念して年頭の挨拶とします。

